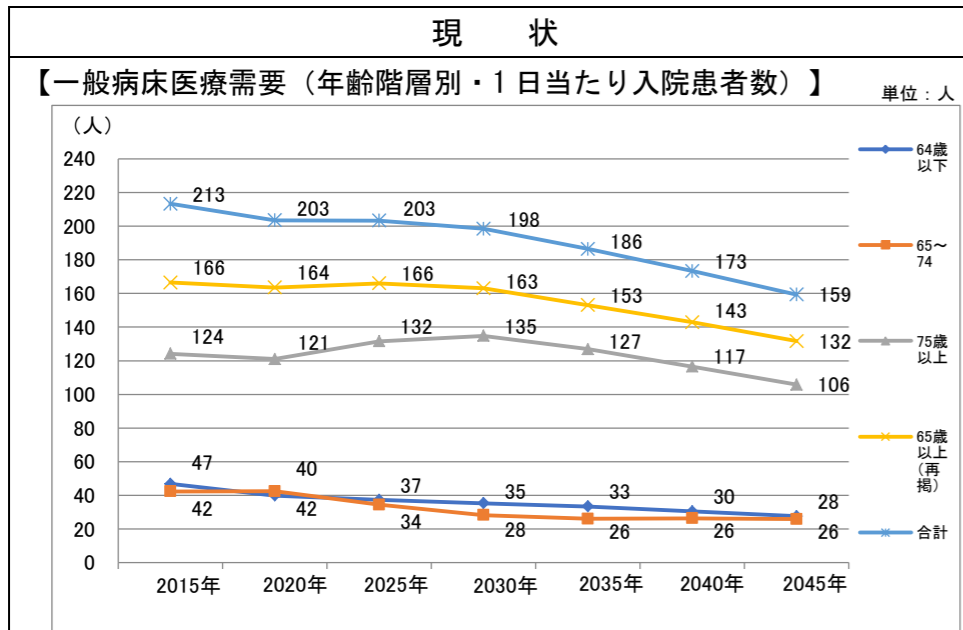


新美祢市病院改革プラン（令和2年3月全面改定版）の概要



【市立病院・美東病院1日当たり患者数の推移】 単位：人

項目	年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
		市立	入院患者数 一般(96床)※ 療養(49床)	75.4 48.3	72.1 47.3	72.5 47.4	61.1 46.2	64.2 47.0
外来患者数		197.9	196.6	189.1	175.1	158.9	156.3	152.6
美東	入院患者数 一般(60床) 療養(40床)	55.2 34.0	53.4 32.7	47.7 35.4	47.0 32.7	48.3 34.3	46.5 32.8	47.2 31.2
外来患者数		140.4	135.5	132.3	135.0	124.0	125.8	119.1
全体	入院患者数 一般(156床)※ 療養(89床)	130.6 82.3	125.5 80.0	120.2 82.8	108.1 78.9	112.5 81.3	116.3 80.2	108.3 76.0
外来患者数		338.3	332.1	321.4	310.1	282.9	282.1	271.7

※2018年度より、96床→89床（△7床） 156床→149床（△7床）

【基本機能（2020年1月1日現在）】

	美祢市立病院	美祢市立美東病院
病床の種類・数	138床 一般病床 89床 (うち地域包括ケア病床 30床) 療養病床 49床	100床 一般病床 60床 (うち地域包括ケア病床 12床) 療養病床 40床 (うち介護療養型病床 6床)
医師数	6名(正規5名 非正規1名)	6名(正規)
看護配置	一般病床 10:1 療養病床 25:1	一般病床 10:1 療養病床 20:1
救急関係	救急告示 病院群輪番制	救急告示 在宅当番医

あらわれている問題点

- ① 市立2病院で治療できる患者が市外に流出
 - 一定の急性期・回復期の医療需要があるにもかかわらず、個々の病院の入院患者数が少ない原因は、患者が他の病院に入院しているということ。
 - 2018年の美祢市民の一般病床に係る医療需要(1日当たり入院患者数) 210人
 - そのうち急性期・回復期医療需要 194人
 - そのうち市立2病院で治療可能 155人
 - 2018年度の市立2病院1日当たり入院患者数 108人
 - その結果、市立2病院で対応可能な患者が1日当たり50人弱、市外で入院していると推定。
- ② 医師が不足
 - 公立病院の全国平均常勤医師数は、50床以上100床未満であれば8.0人、100床以上200床未満であれば8.7人(2017年度地方公営企業年鑑)。
 - 現在の市立2病院の常勤医数では明らかに不足しており、医師に過重な勤務を強いている。
- ③ 病院の経営に必要な資金(現金)が枯渇
 - 「市外への患者流出」などの問題の影響により、収益的収支における赤字が拡大していけば、そのことによって、資金が減少し、病院運営が困難な状況となる。

市立2病院の役割

- 公立病院として
 - ・山間へき地・離島など民間医療機関の立地が困難な過疎地等における一般医療/救急などの不採算医療の提供
 - ・他に一般病院がない以上、急性期・回復期・慢性期医療の提供、在宅医療の支援等多様な機能を担う。
 - ・へき地で医療を担う医師は、専門医かつ総合診療医として日常的に発生する疾病ほとんど全ての診療にあたる。
- 地域医療構想を踏まえて
 - ・市立2病院の入院患者の80%以上を占め、今後も増加傾向にある75歳以上の高齢者の医療需要に対し、10対1病床から地域包括ケア病床への転換により対応。
 - ・宇部小野田医療圏：回復期病床不足/他の機能病床過剰

課題の整理と対応

